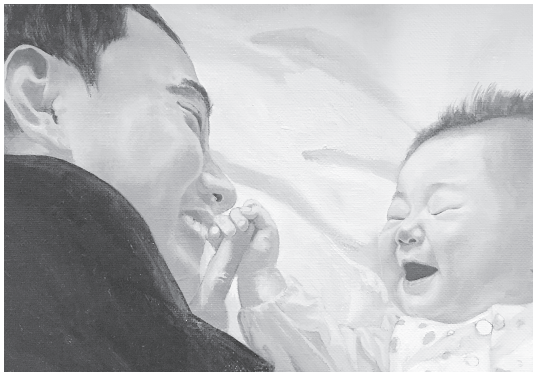


## 岡山県が求める これからの教員とは

県教育庁教育次長

有 本 明 彦



- 一 役者心のある先生であれ  
【表情や動きはより豊かに】
- 二 愛語、笑顔で子どもと向き合える先生であれ  
【子どもとの関わりを大切にせよ】
- 三 子どもがドキドキする先生であれ  
【子どもの心に響く授業と特技を磨け】
- 四 本気で叱れる先生であれ  
【正義感をしっかりと育め】
- 五 子どもといっしょに遊べる先生であれ  
【日々の子どもの表情やつぶやきに気をくばれ】
- 六 体験豊富な先生であれ  
【子どもに社会を教えよ 礼儀・服装 ことば遣い】
- 七 子どもの人権を尊重する先生であれ  
【子どものいのちは絶対に守れ 自らのことば遣いに気をつけよ】
- 八 人の意見に耳を傾けられる先生であれ  
【謙虚であれ 素直であれ 誠実であれ】
- 九 子どもに柔軟に対応できる先生であれ  
【万んで空回りするな 心にゆとりを持て】
- 十 心身の健康な先生であれ  
【元氣こそがやる気のもと】

これは、十年程前に、ある大学から教職を目指す学生に話をしてほしいとの依頼を受けて、最後に「こんな先生になってほしい十か条」（自分で勝手に決めたものだが）として伝えたものである。

まもなく二学期が始まるが、新採用の先生方は、今、元氣だろうか。四月以来、学生気分は一瞬に吹っ飛び、日々の教科指導をはじめ、学級ホームルームの経営、生徒指導、学校行事等々全てが初めて取り組むことばかりである。一人で悩んだり、問題を抱え込んではいないだろうか。教職という仕事へのやりがいや情熱は、採用前と変わってはいないだろうか。少し案じている。

ここ数年、多くのベテランの先生方が退職を迎え、毎年六百名近い新採用の教員が県下各地の学校に配属されている。校外での初任者研修もさることながら、校内での初任者を育成する組織的な体制（OJT）の充実を、今まで以上に図ってほしいと思う。一方で、新採用の先生方には、自らが積極的に日々の職務に取り組み中で、教師としての強い使命感とともに、先輩教員の実践から謙虚に学ぶ姿勢を常々持つてほしいと願っている。

今日、本県の教育課題は、依然として厳しい状況であり、その課題解決のためには、何より教員の資質能力に負うところが大変大きいと思っている。今後数年、多くの教員の採用が予想される中で、県教委としては、昨年度からキャリアステージに応じた求める教員像や資質能力を明らかにし、その育成方策等について、「人材育成基本方針」として、その策定を進めているところである。

近年、グローバル化や情報化の進展に伴い社会が大きく変化する中で、高い志を持ち、将来社会に貢献できる人材を育成するためには、岡山県としてこれからどんな教員を養成・採用・育成（研修）する必要があるのか等について、本年度、様々な立場の方々からご意見を賜りながら、岡山らしい実効性のある方針を策定したいと考えている。この機会に、改めて十か条を考え直してみたいと思っている。

さて、新採用の先生方、二学期も笑顔と元氣で、子どもたちとともに成長することを切に願っている。あせるな、あきらめるな、くじけるな。